



## プロテスト

### Young-G

政治、経済、宗教、人種問題がラップの議題になり、皮肉にも状況が悪くなればなるほど言葉に力が宿ります。ヒップホップは元々公園のパーティーから生まれた音楽でありメッセージであり文化です。Public Enemyのチャック・Dによると「ラップミュージックは黒人社会におけるCNNである」という。本家アメリカでは時にヒップホップは革命のテーマソングとしても機能しました。92年のロス暴動の頃は、Public Enemyの『Fight The Power』やBody count (Ice T)の『Cop Killer』、Ice cubeの『Black Korea』など権力や差別への怒りの表現が多く見られました。こういった曲をラジオでDJがプレイするとディレクターからクビにされるといったこともあったようです。それでも曲に共感するリスナーは増えるばかりだったようです。2020年に大きな高まりを見せたBlack Lives Matter然り、ヒップホップは時に時代を動かすプロテストソングとして機能します。

#### Public Enemy - Fight The Power

Public Enemy - Fight The Power (2020 Remix) feat. Nas, Rapsody, Black Thought, Jahi, YG & QuestLove

アジアでも現在進行形で政府や体制の様々な問題がラップによって議題に挙げられ続けています。特筆すべきは2020年11月現在、タイでは長期に渡った反軍事政権デモが巨大化しタイ国内は混沌とした状況であります。その中で若者の代弁者としてR.A.D (RAP AGAINST DICTATORSHIP) というラップグループはこう歌います。

RAP AGAINST DICTATORSHIP - REFORM (日本語字幕あり)

タイにおいての民主革命といえば1973年に学生により発起した「血の日曜日事件」が有名ですが、この運動の陰で人々を鼓舞していたのがタイの「プレーン・プア・チーウィット」という音楽です。「生きるための歌」と呼ばれるこのフォークに似た音楽は、人を勇気づけ、社会を鋭くユーモラスに批判し、当時から厳しい暮らしを強いられていた人たちに支持され、民主革命時にはテーマソングのように集会などで歌われました。このムーブメントの創始者と呼ばれるカラワンというバンドのメンバーは、軍や警察から逃れ、実際にバンコクから東北イサーン地方の森に潜伏し活動をしていました。その森からラジオ放送を発信し、人々を鼓舞するプレーン・プア・チーウィットを放送しつづけたのは有名な話です。現在は、それがR.A.Dとスマートフォンに置き換えられます。独裁政権に対する民主革命のテーマソングがスマホからたくさん拡散されていき、デモに参加する人たちなどを鼓舞しています。R.A.Dとカラワン、タイでは昔も今も音楽のジャンルを超えた「反骨精神」が国を動かし続けています。

## 関連リンク

- 「すべての人々よ、団結せよ」：タイのHIPHOPプロジェクト〈RAD〉がアゲンストするものとは？  
<https://i-d.vice.com/jp/article/439v3n/hiphop-project-rap-against-dictatorship>
- 先鋭化するタイ民主化デモの文化的側面。その歴史とネットワークを探る  
<https://bijutsutecho.com/magazine/insight/23153>